



四万十町
町内「ぶら〜り」散策

市生原

いちうばら

銅

矛(どうほこ・どうぼこ)。銅銚とも書く。弥生時代に入ってもなく、朝鮮半島から伝来した、青銅製の槍のような武器の先端部である。日本では、弥生時代中期から九州のみで生産されていたとされ、そこから全国に伝播したのと思われる。高知県でも約40本の銅矛が見つまっているのだが、その約半分の19本が旧窪川町から見つかっている。さらにそのうちの7本が、ここ市生原の高賀茂神社に御神宝として祀られている。

伝来した時の銅矛は実用的、つまり戦などで使う武器としてであったが、日本で生産され始めて間もなく、それは非実用的な大型のものになっていく。おそらく祭祀用として使用するためであったと思われる。高賀茂神社に祀られている銅矛もそうである。

高賀茂神社は現在、県道19号窪川船戸線の東側の山裾にあるのだが、明治23年の大水害までは四万十川のすぐそばにあった。もちろん、銅矛もそこに祀られていた。水害の折、激流に呑み込まれる寸前の銅矛は、数人の地区住民によって救われた。それまでも、何度も水害の危機にあつてきたのであろう。これを機に神社は現在の場所に移された。

さて市生原は、四万十川を挟んで作屋地区の向かい側である。現在、44



銅矛。柄を差し込んで使用する。おそらく祭祀用であろう

世帯、95人の人たちが暮らしている。

戦国期には「市原」と記されている。江戸初期の記録では、作屋村と連記され、石高も併せて計上されていることから、当時の両村には何らかの一体感があつたのであろう。実際、対岸の作屋地区には、弥生式土器と銅矛5本などが見つかった西ノ川口遺跡や、高賀茂神社と同じように矛を御神宝とする河内神社、また、銅矛が出土した「ホコノコシ遺跡」がある。

実は、高賀茂神社の銅矛は、中世末期までに、このホコノコシ遺跡から出土したものではないかと見られている。高賀茂神社のすぐ北側にお堂があり、小さな小さな仏様がいらつしやるのだが、その周りを十二神将とみられる像が守りを固めている。奈良・新薬師寺の形態を模して祀ったのではないかと思われる。これもまた、市生原の大切な「文化遺産」である。

町のうごき		人口				出生 死亡 転入 転出				適正値(mg/l) 7月13日		
		6月30日	前月比	男	女	男	女	男	女	男	女	
男		8,625	4	4	11	19	8	リン酸	≤ 5.0	測定範囲以下		
女		9,644	1	4	8	22	17	硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下		
計		18,269	5	計	8	19	41	25	アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下	
世帯数		8,671	1					アニオン活性剤	≤ 1.0	0.250		
						(6月中の届出)				化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以上

調査：大正(吾川) 資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)